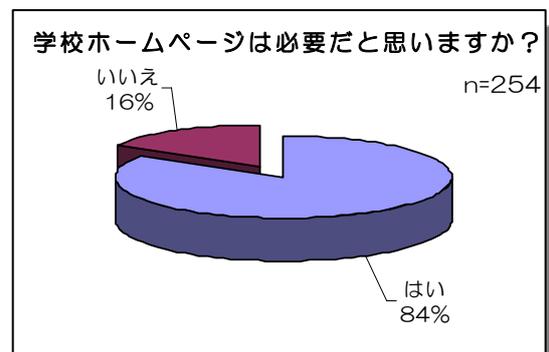
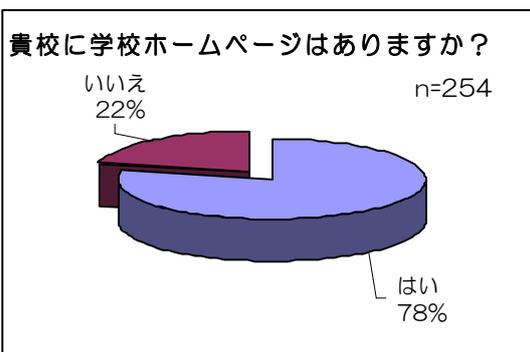


2 学校ホームページの現状

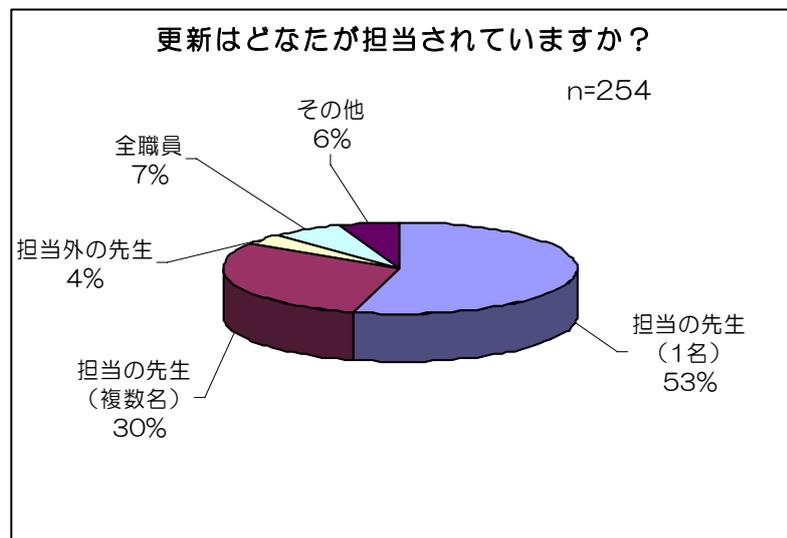
総合教育センターにおける研修や各種研修会の折に学校ホームページに関するアンケートに御協力いただき、小学校と県立学校の先生方から回答をいただきました。

アンケート結果

- 小学校・県立学校のホームページ開設率は約8割
- ホームページの必要性を感じている学校は8割以上
- ホームページ担当者1名の学校が5割以上
- 保護者や地域とのコミュニケーションに積極的に活用している学校は1割程度
- 月に1回程度またはそれ以下の更新頻度の学校は7割以上
- ホームページ運営に関する時間の確保が困難



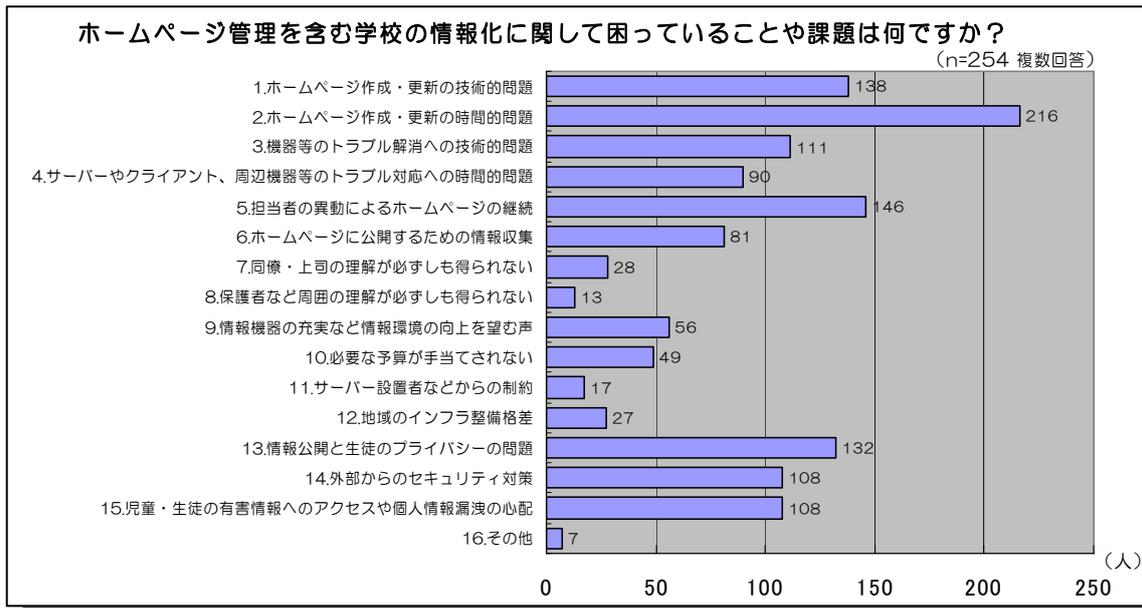
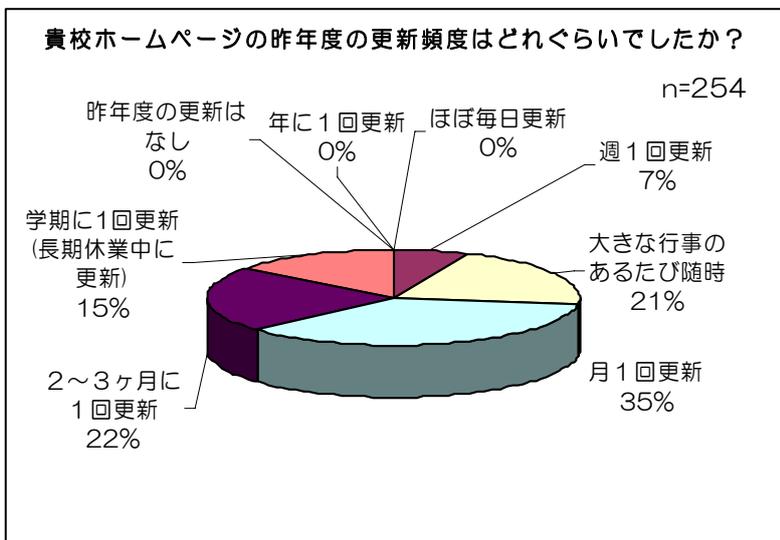
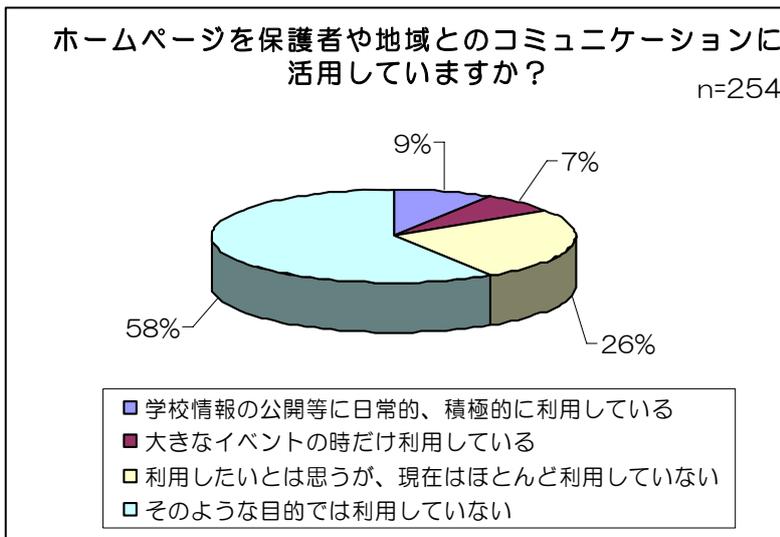
アンケート結果をみると、多くの先生方が学校ホームページの必要性を感じているにもかかわらず、校務が多忙なために学校ホームページの開設や、それに必要なスキルを身につけるための時間がなかなか取れない現状がうかがえます。



また、下のグラフからもわかるように、既に学校ホームページが開設されている学校においても、ホームページ担当者への負担の集中や組織的な運営の難しさなどから、その更新頻度は月に1回程度の学校が多く、少ない場合には学期に1回程度にとどまっている学校もあります。

発信された内容について、全国の数値と比較すると、「学校紹介」カテゴリのコンテンツはある程度発信されていますが、「学校の内容」や「活動」カテゴリのコンテンツは少なく、「アナウンス」のコンテンツに関してはプリントによる連絡がまだまだ主流のためか、発信している学校はわずかです。

発信が必要と思われる

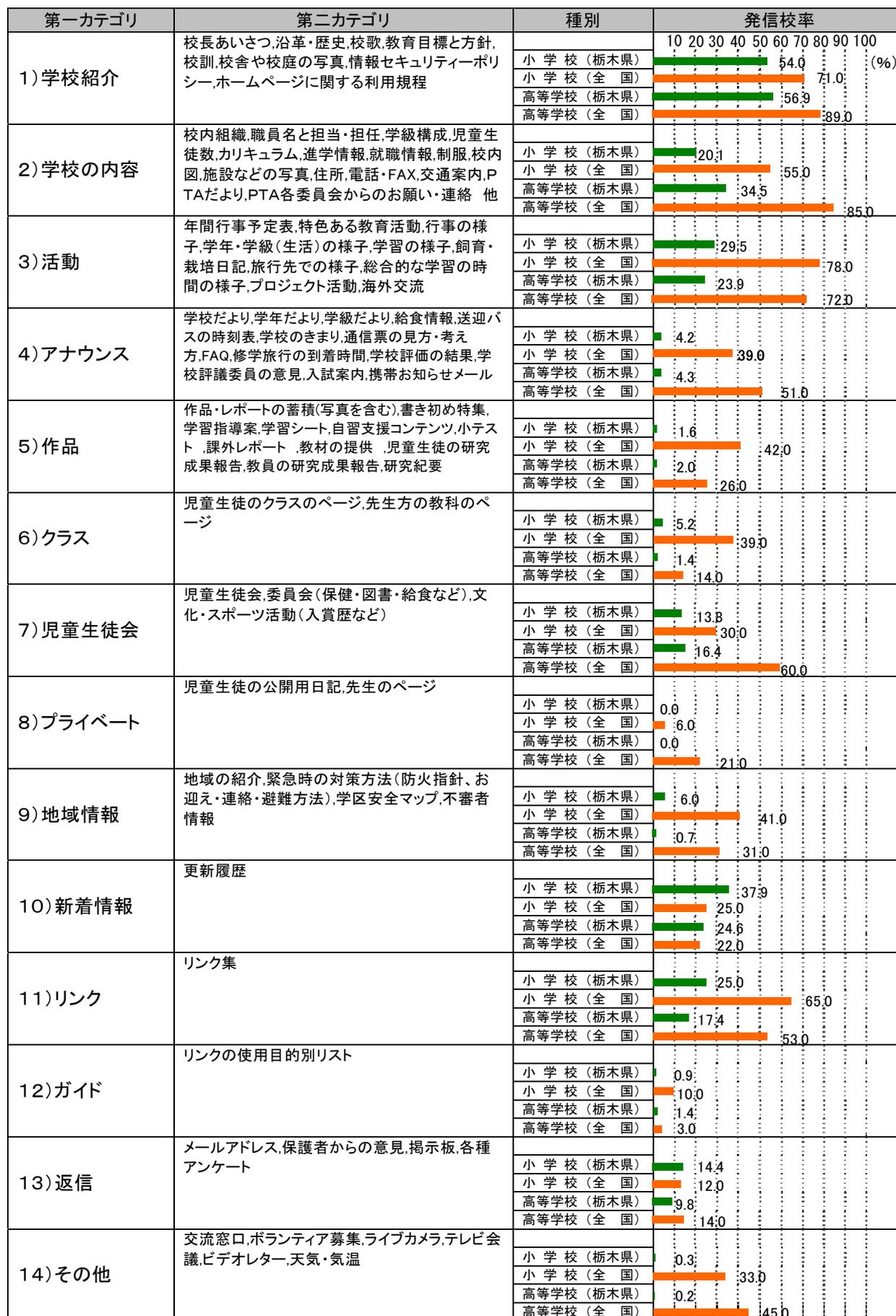


情報を比較してみると、小学校では児童の活動の様子や作品、給食の献立など、高校では進路情報や部活動の様子などが多く、それぞれの特色が現れていますが、発信している学校の数多くはありません。

○ CMSは、これらの問題の解決に役立ちます！

学校ホームページへの訪問者の中には、子どもを持つ保護者はもちろんのこと、教育に関心の高い地域の方々やボランティアの方々、そして、同窓会や企業の方々など、いわば学校の応援団になってくれる方々もたくさん含まれています。せっかく訪問したにもかかわらず、発信情報が形式的で不十分であったり、欲しい情報が得られなかったり、ましてや全くページの更新もされていなかったりしたのでは、こうした方々の信頼さえも失ってしまいかねません。学校への信頼を高めようとしてつくったはずの学校ホームページが、マイナスに作用してしまうことさえあるのです。学校ホームページにおけるニーズをとらえたタイムリーな情報発信の継続は、訪問者への信用を得るきっかけになります。

発信内容の分類に関するグラフ



参考) 学校Webサイト活用法 石塚丈晴・堀田達也 共編 高陵社書店 2005年6月17日発行 をもとに作成。